

第17回 近畿中学校社会科教育研究大会 滋賀大会

平成23年度 滋賀県中学校教育研究会 社会科部会研究発表協議会

金融教育公開授業 in 滋賀

研 究 紀 要

平成23(2011)年11月11日(金)

研究主題

社会を創る力を育てる社会科学習

～「わかる」・「つながる」・「つくる」社会科～

主催

近畿中学校社会科教育研究会

滋賀県中学校教育研究会社会科部会

共催

滋賀県金融広報委員会

金融広報中央委員会

9 発表担当

(敬称略)

	地理的分野	歴史的分野	公民的分野
会 場	甲賀市立土山中学校	甲賀市立信楽中学校	甲賀市立甲南中学校
指導助言	滋賀県教育委員会 学校教育課主査 中村 俊英	滋賀県教育委員会 学校教育課指導主事 久保田 重幸	滋賀大学教育学部 岸本 実
分野別 提 案 (分野長)	大津市立打出中学校 教諭 木村 公則	守山市立守山中学校 教諭 奥村 信夫	甲賀市立甲南中学校 教諭 井上 陽平
公開授業	甲賀市立土山中学校 教諭 奥更屋 博史	甲賀市立信楽中学校 教諭 中條 克彦	甲賀市立甲南中学校 教諭 石岡 一也
研究協議 司 会	野洲市立野洲中学校 教諭 笹井 千英	守山市立守山南中学校 教諭 森 康夫	草津市立玉川中学校 教諭 前田 政彦
記 録	彦根市立稻枝中学校 教諭 筒井 惣一郎	甲賀市立城山中学校 教諭 小林 美希	守山市立守山中学校 教諭 正江 茂文
運 営	甲賀市立水口中学校 教諭 石原 広基	甲賀市立甲賀中学校 教諭 西村 栄樹	湖南市立石部中学校 教諭 國領 信一

1. 研究主題

社会を創る力を育てる社会科学習 ～「わかる」・「つながる」・「つくる」社会科～

2. 主題設定の理由

21世紀に入って10年を迎える現在、私たちの住む社会は情報化、国際化、価値の多様化など、変動のスピードがさらに激しくなっている。

このような状況の中で様々な人とつながりあい、ボランティアや環境保護、国際貢献などで意欲的に活動している人も多い。しかしそれ以上に、社会参加の意欲の低下、コミュニケーション能力の欠如、将来を悲観視する人の増加などの問題が指摘されることの方が多い。時代の変化に対応できない不安がこれらの行動を生んでいると言えよう。

私たちの目の前にいる生徒もまたその変動の中で生き生きするというよりも、戸惑ったり、考えることを避けている者が多いのではないかと。社会科を今なお単なる暗記教科ととらえる生徒（従来のシステムに固執する）、社会科が「はっきりしないからわかりにくい」と感じている生徒（単純化を求める）、主体的な態度で学習に臨んでいるとは言いがたい生徒（状況に流される）がまだ多くいるのが現状であり、もっとも身近な「社会」である生徒同士のつながりでさえ高まらない状況もみられる。

もちろんこのような問題意識は、以前から私たちの中にあつたものである。

それゆえに私たちは2006（平成18）年度から「社会を創る力を育てる社会科学習」を主題として、「基礎・基本を身につけ、社会を考え、社会とつながる授業を展開しながら」を副主題としながら研究を深めてきた。そこでは多くの成果を得ることができたが、次のような課題も明らかになった。

- ①「基礎・基本を身につける」に関して、その定義がはっきりせず、重要用語を列挙する傾向が見られ、社会的思考や社会を理解することと関連づけて追究する必要があつた。
- ②「社会を考える」に関して、思考そのものが目的になってしまう傾向が見られ、思考と理解の関連性を追求する必要があつた。
- ③「社会とつながる」に関して、生徒同士の対話の場面を作る、ゲストティーチャーを招くなど、社会的事象とのつながりを意識した実践をさらに積み上げる必要があつた。

2009（平成21）年度からはこれらをふまえ、それまでの主題を引き継ぎつつ、「社会を創る力」とは「社会がわかり、人と人がつながって、よりよい社会をつくる資質」と規定して、新たに「わかる」・「つながる」・「つくる」という副主題に変え、これらの課題を克服しようと考えた。

「わかる」は、「内容を暗記する」のではなく、より掘りや深まりをもって「理解・吸収する」活動である。

ある社会的事象、あるいは人物が登場する背景や影響を考える場合、そこには多面的で多角的な意味合いがある。例えば「工業県・滋賀」を考えても、そこには都市との位置関係、交通路の整備、安価で手に入る土地、豊富な水という背景があり、また急激な人口の増加や公害の発生、外国人労働者の増加など多くの影響がある。そこで「工業県・滋賀」を扱うとき、資料を使ってその背景を気づかせ（取り出し）たり、さまざまな立場からいいことなのかどうかを考えさせ（評価させ）たり、自分の周りの知識や経験と結びつけ（熟考）させたり、同じような状況の県はないのかを探させ（共通化させ）たりする授業づくりを行うことによって、生徒が「単に暗記する」のではなく、「内容を理解・吸収する」方向に向かわせたい。

「つながる」は、現実の社会との接点を意識づけることである。

その方法は「身近なモノから社会を見ていく」、「生徒同士の意見を交流させる」、「専門家をゲストに招く」、「博物館や資料館を有効に活用する」など、さまざまなものが考えられる。ただしここで注意しなければならないことは、最初の印象や浅い知識だけで意見を交流させたり、何の予

備知識もなしにゲストティーチャーから話を聞くなどの実践にならないことである。「生徒が持っている知識を整理する」、「新たに必要となる知識を加えていく」などの事前学習、「意識の変化を実感する」、「自分以外の意見で取り入れられるところを探す」などの事後学習が必要であり、より計画的な授業計画が求められる。

「つくる」は、学習内容がわかり、社会とつながっているという意識の上に、その社会をよりよいものにしていくために行動するのである。

それは具体的な社会への働きかけもあるだろうが、もっと身近な、自分の意見を整理して論述することや生徒同士の話し合いの中で合意点を探すなどの活動が中心となるだろう。

その際に忘れてはならないことは二つある。一つは価値の多様化がすすむ現在だからこそ、どのような立場の人も納得できる共通のルールが必要である、という認識である。個々の価値表明に終わることなく、社会全体としての妥協点を探る必要がある。もう一つは自分は社会に貢献できるという自信を持たせることである。自分の行動は社会のある部分を引き継ぐものであり、それを意志発展させて次の時代に引き継ぐという意識のもとに行動を起こさせたい。

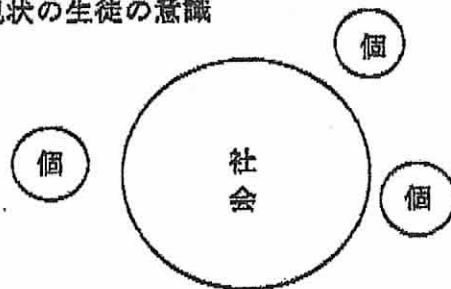
ある単元を計画し実践する際にこの「わかる」・「つながる」・「つくる」を意識することで、生徒が現在の社会がどういうものかがわかり、自分も社会の一員であることを意識し、その上で自分がどんな意見を持ち、どう行動するのかを考え、判断する力を育てられると考えられる。

そしてそのような学習を積み上げた生徒が将来実社会に出たときに、自分が考えたことを社会と決定的な衝突をすることなく行動に移し、その結果社会にも貢献できる人物になると考える。おそらくこれからは社会はより激しく変動し、より幅広い価値観が生まれるだろう。それは社会が成熟してきたことであり、そのこと自体には問題がない。むしろ問題はその変化を受け入れて活用する力をつける必要があるのに、従来の方法論で対応しようとしたり、わからないと投げ出してしまったりする行動にある。

私たちは「社会」を教えているという意識を強く持ち、この変化を受け入れて、なおかつ、よりよいものに創り上げていく一員としての自覚が求められる。そしてそれはまだ誰も経験したことのないものであるからこそ、生徒とともに考えていく姿勢を持ちたい。

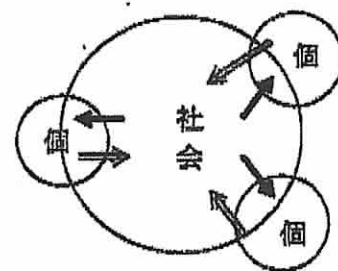
このような理由から、今年度の研究主題を「社会を創る力を育てる社会科教育」、副主題を「わかる・つながる・つくる社会科」とする。

◎現状の生徒の意識



- ・社会の一員という意識がうすい
- ・社会から学ぶものはなく、また社会に貢献できるとも思わない

◎目標とする生徒の意識



- わかる ○ つながる ⇒ つくる
- ・社会の一員という意識がある
 - ・社会から学び、社会に貢献しようとする

※ ◎：中心となる活動 ○：意識したい活動

A：「わかる」＝教養として使いこなせるまで理解を深める

◎学習した内容が、他の事象にも活用・応用できる。

→ 他の事象との共通点や相違点をみつける。次の展開を予想して確認する。

○多面的・多角的に社会的事象をとらえる。

→ 立場を変えて考える（葛藤する）。長所・短所を整理する。

○学習内容を関連させていく。

→ 出来事の関連を意識する。日本の中での滋賀や世界の中の日本を位置づける。

○資料をよみとり、吟味する。

→ 資料から何がわかるかを整理する（情報の取り出し）。補足資料を探す。

資料から読み取ったことから推論して意味を理解する（解釈）。

読み取ったことを自らの知識や経験と結びつける（熟考・評価）。

B：「つながる」＝自分が現実の社会の一員であるという自覚を持つ

◎教材を通して現実とつながる。

→ 身近なモノから社会を見る。学習した後にその教材から内容を想起する

○仲間との交流を通して社会を発見する。

→ 対話を通して意見を交流する。アンケートから仲間の意識を知る。

○大人との出会いを通して現状を知る。

→ 体験者や当事者から話を聞く。家ではどうしているのかを交流する。

C：「つくる」＝自身の考えを表現・発信し、社会への貢献を果たす

◎社会的な合意点を探す。

→ どのような立場の人も一定の満足度が得られる体制やルールを構築する。

○学習した内容を自分のことばで発表できる。

→ レポートを作成する。適切な資料をとりあげる。

○近未来をイメージする。

→ これから起こりうる事象に対する備えを考える。自分の将来と結びつける。

3. 研究仮説

「わかる」・「つながる」・「つくる」を重視した授業を計画・実践することを積み重ねていけば、生徒が自分が考えたことを社会と決定的な衝突をすることなく行動に移し、その結果、社会に貢献できる人物になるのではないか

社会科（地理的分野）学習指導案

日時 平成23(2011)年11月11日(金)

学級 1年3組 (計27名)

指導者 甲賀市立土山中学校教諭 奥更屋 博史

1. 単元名 「南アメリカ州 ～環境保全について考える～」

2. 単元設定の理由

さまざまなメディアによる報道や環境教育等を通じ、地球環境問題やエネルギー資源問題に対する生徒の知識や認識は以前よりも高まっている。環境についての話題に触れ、考える機会が多く設けられるようになってきた今日、環境問題をより身近な問題として捉え、行動に移していく必要がある。

世界各地では、持続可能な開発・発展に向け、様々な取り組みが行われている。南アメリカ州の国々においても持続可能な農業生産システムの構築や、公有地の適切な監視・管理の必要性が訴えられている。農畜産業においては違法伐採などにより熱帯林が畑や牧場に変化し、地球温暖化の進行に多大な影響を及ぼしている。こういった現状をふまえ、環境を守ることと人々の生活の向上を両立させていく道を生徒たちに追究させたいと考え、本指導計画を作成した。

(1) めざす生徒の姿

地理的分野の基本的な目標は、「日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う。」である。今回の学習指導要領の改訂においては、世界の諸地域と日本の諸地域に関する地誌的な学習を充実する方向で内容構成が図られた。

移行期にあたる平成23年度入学の本校第1学年においては、完全実施の来年を見据えながら地球儀や地図帳、写真資料やインターネットを活用し、世界の中の日本を意識して学習を進めてきている。また、それぞれの地域を概観し、今後の学習の中で成果を整理する際に活用できるようにするため、地図の中では機会があるごとに赤道や本初子午線、日本の標準時子午線を意識して指導している。

この学級の生徒は、学習や作業にも前向きに取り組み、授業での発表も積極的である。しかしながら、自然に恵まれた地域性もあり、環境問題への意識が低く、滋賀県に在住しながらも琵琶湖に対する関心も高いとはいえない。山間部であるため、森林伐採や温暖化についても遠いことのように感じ、身近な問題としてとらえにくいところがある。

本単元では、様々な資料を的確に読み取ったり、地図を有効に活用したりすることを通して、南アメリカ州の地域的特色の理解につなげ、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換する学習活動を通して、より自分の考えを深めたり、新たに課題を追究する意欲につなげたいと考えている。また、南アメリカの環境問題と自分たちの地域の環境問題とを比較していくことで、視野を広げ、地球規模で物事を考えられるように導きたい。

また、授業を構成していくうえでは、以下の視点に留意して取り組んでいきたい。

- ・現代や過去のある時期の社会の現状とそこにある課題を見抜ける授業
- ・課題を解決するためにどうすればよいかを考えられる授業
- ・身近な問題と関係づけたり、自分の問題として考えられる授業

次に、授業内容としては言語活動の充実の視点から、

- ・何を学んだのかがわかりやすい授業
- ・自分の意見や考えを安心して言えたり、人の考えや知識を聞ける授業

これらのことを生徒たちが実感できれば、授業内容への興味関心を高め、「自ら学ぶ意欲の湧く授業」となり、個々の学習意欲が向上し、そのことにより学習効果が高まり学力向上につながる取り組みになると考える。本県の研究主題「社会を創る力を育てる社会科学習」(～「わかる」・「つながる」・「つくる」社会科～)に関わり、第1学年のこの段階では、「わかる」ことから次のステップ「つながる」を中心に授業を展開していきたい。

本単元、南アメリカ州では、地図や資料の読み取りから地理的特色が「わかり」、歴史的な背景や

地域的な関連から「つながり」を意識することで、学習に意欲を持たせたい。また、南アメリカの持つ課題を意識することで、これからの日本と南アメリカの将来像を想像し、日本の将来を「つくる」担い手であることを意識する、という次のステップへの足がかりの単元に位置づけたい。また、本授業においては、特に学習意欲を高めるために、効果的に視聴覚（情報）機器を利用していきたい。

（２）教材観

本単元では、開発と環境という視点から南アメリカ州を取り上げ「環境保全について考える」という主題を設定した。南アメリカ州のアマゾン川流域に広がる熱帯雨林の保全のために、人類が何を考え行動していかなければならないかを、持続可能な開発という視点からとらえさせたい。

南アメリカ州は、第一次産品の輸出を中心に世界の資源・食料の供給基地として発展を遂げ、近年、ブラジルはBRICaの一員として経済発展、工業発展もめざましい。しかし、一方で資源開発、食糧増産がアマゾンの環境破壊を引き起こしている。アマゾン川流域には、700万km²におよぶ広大な熱帯雨林が広がっている。アマゾンの森林は8か国にまたがり、ブラジルの国土のおよそ40%におよぶ。そのアマゾンの原生林が乱開発の影響で急速に消失している。アマゾンの森林は地球の生態系全体からみて貴重な存在であるとともに、アマゾン先住民にとっては、伝統的な狩猟採集生活をするうえで必要不可欠なものである。ブラジル政府は、アマゾン横断道路などの道路の整備を進めるとともに、アマゾン平原への入植政策を進めた。この結果、1960年に200万人に過ぎなかったアマゾン地域の人口は、2000年には2000万人に達し、森林が伐採された場所や、開拓地の95%が、町や村の周囲25km以内にある。森林破壊が町や村の周辺で起きていて、人口増加が深刻な環境破壊をもたらしている。実際、2000年～2005年には450万haの森林が消失し、現在でも毎年270～300万haの森林が消失している。日本にとって南アメリカ州は、重要な資源や農産品の輸入相手であり、経済的な結びつきも深まっている。また、グローバルな視点で、環境問題に関心を持つ必要がある。

そこで、身近な地域の開発とアマゾンの開発とを対比させ、熱帯林が大規模に消失する事によって引き起こされる問題について考察させたい。そして、地球温暖化、絶滅危惧種の絶滅、先住民の伝統的生活の破壊等の問題に触れ、「持続可能な開発」をいかに達成していくかが人類に課せられた大きな課題であることに気づかせたい。開発による経済発展と環境保全の両立を考察することで南アメリカ州の地域的特色を理解させたい。

3. 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
・アマゾン川流域における環境保全と開発に関する取り組みを基に、世界の諸地域の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	・南アメリカ州の地域的特色を、アマゾン川流域における環境保全と開発に関する諸問題を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・南アメリカ州の自然や産業に関する様々な資料を収集し、環境保全と開発に関する有用な情報を適切に選択している ・適切に選択した情報を基に、アマゾン川流域における環境保全と開発に関する諸問題について読み取りまとめている。	・南アメリカ州について、アマゾン川流域における環境保全と開発に関する諸問題を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

4. 単元の指導計画

時	項目 (授業のタイトル)	学習内容	学習内容と指導上の留意点 (使用する教材や発問の工夫)	わかる つながる つくる
1	南アメリカの自然・人種構成	1 南アメリカのようす	・白地図作業をとおして、今後の学習の基礎となる南アメリカ州のおもな国名や地形についてまとめさせる。その際、赤道や緯度・経度を意識させる。	わかる
		2 アマゾンの熱帯林	・広大な自然が広がる南アメリカ州において、熱帯高地で暮らす人々のようすやその苦勞について考えさせる。また、多様な動植物のようす、温帯の草原地域の景観について地図帳等を活用し概観する。	つながる
		3 多様な人種構成をもつブラジル	・「ブラジルの人種構成」のグラフを例として挙げ、混血（メスチーソ）やヨーロッパ系の人種が多いことをつかませる。 ・日本人が労働力としてだけでなく、高い農業技術で農業の近代化に貢献したことに触れる。	わかる つながる
2	自然や資源を生かした産業	1 自然環境を生かした農業	・統計資料を活用し、オレンジ・木材・コーヒーなどの生産量や鉱産物の探掘量が世界的に多いことを理解させ、まとめさせる。	わかる
		2 めぐまれた鉱産資源	・気候や海流、地形などの自然条件に合わせた農業形態（焼畑農業）や特色ある産業が成立していることを理解させる。 ・「日本のおもな輸入品」や「おもな国の工業製品の輸出先」のグラフから、日本はブラジルで探掘される鉄鉱石を輸入していることに気づかせる。	わかる つながる
		3 工業化（都市化）の進むブラジル	・写真資料などを提示し、都市化による交通網の発達や生活水準の向上が見られることを説明し、理解させる。	わかる

時	項目 (授業のタイトル)	学習内容	学習内容と指導上の留意点 (使用する教材や発問の工夫)	わかる つながる つくる
3	環境保全と開発	<p>1 甲賀市の変化とアマゾン川の変化</p> <p>2 アマゾン地域の開発</p> <p>3 アマゾン川流域開発のメリット・デメリット</p> <p>4 身近な開発のメリットとデメリット</p> <p>5 持続可能な開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真資料から甲賀市とアマゾン川流域の変化に気づかせる。 ・熱帯林の減少割合を示した分布図から、減少する熱帯林と増大する耕地の現状を理解させる。 ・熱帯林が大規模に失われると、どのような問題が起こるのか考えさせる。 ・なぜ開発が進むのか、さまざまな立場から理由を考えさせる。 ・土山中学校の周辺でも、大規模な開発があったことを理解させる。 ・開発によって土山が受けたメリット・デメリットを考えさせる。 ・環境を守ることと人々が豊かな生活を送ることを両立させるためにはどのようなことができるか考えさせる。 ・実際に行なわれている環境保全に関する取り組みなどを紹介し、考察を深めさせる。 	<p>わかる</p> <p>わかる</p> <p>わかる</p> <p>つながる</p> <p>つくる</p> <p>わかる</p>

5. 本時の指導案

(1) 本時の主題 環境保全と開発

(2) 本時の目標

南アメリカ州ではアマゾンの森林が減少し、農作物栽培等が増加している。アマゾンの森林破壊の実態を理解し（わかる）、開発のメリットとデメリットを、アマゾン川流域と共に土山周辺の開発についても考え（つながる）、持続可能な開発について考察する（つくる）。

(3) 本時の展開

	学習活動	形態	教師の支援・配慮事項	評価規準と方法	わかる・つながる・つくる
導入	1. 甲賀市の変化とアマゾン川の変化	全体	○アマゾン川流域の変化を提示。2枚の写真の相違点は何だろう？なぜこのように変化したのだろう？	・写真に注目し、変化に気付く（関心・意欲・態度）	わかる
展開	2. アマゾン地域の開発	全体	○熱帯林の減少割合の世界地図を提示。森林はなぜこのように減ったのだろう？ ○熱帯林が大規模に失われると、どのような問題がおこるのだろう？開発の写真も示す。 ○開発によるデメリットも多いのに、なお開発を進めるのはなぜなのだろう？	・地図から課題を読み取れる（資料活用）観察・発表 ・問題点を考察できる。（思考・判断・表現）観察・発表	わかる わかる
	3. 身近な開発とブラジルの開発	全体	○甲賀市の過去と現在の写真を示す。土山中の周辺で、大規模な開発は何があった？ ○開発で土山が受けたメリット、デメリットは？ ○ブラジルの森林破壊がなぜ問題なのかを再度考えさせる。40%の酸素供給源が損なわれることの重要性を考える。	・開発の理由、環境保全の必要性について考えられる。（思考・判断・表現）観察・発表	つながる
	5. 持続可能な開発	個↓班↓全体	◎環境を守ることと人々が豊かな生活を送ることを両立させるためにはどのようなことができるか。各自考える→班でまとめ、シートに記入する。 ・各班でまとめたシートを全体に示す。 ・班ごとの意見をお互いに交流する。	・環境保全と開発の両立のための意見をまとめ、発表する（思考・判断・表現）観察 発表 ワークシート	つくる
まとめ	5. 学習のまとめ	全体	○ブラジルでは環境保全のためにどのような取り組みがおこなわれているのだろう。COP10やWWFの報告や活動を資料から紹介する（世界遺産の登録、国際的支援など）	・資料に関心を持つ。（関心・意欲・態度）	わかる

日 時 平成23(2011)年11月11日(金) 2校時
 学 級 2年2組(計30名)
 指導者 甲賀市立信楽中学校教諭 中俵 克彦

1. 単元名 「中世の日本」

2. 指導によせて

(1) めざす生徒の姿

生徒は、小学校第6学年で武士の世界について学んできた。本学級の多くの生徒は源平の戦いや鎌倉・室町幕府の成立、元寇などの出来事、源頼朝をはじめとする人物名、東大寺南大門金剛力士像や銀閣寺などの鎌倉・室町時代の文化遺産について理解している。

しかしながら、なぜこの時代に武士が力をつけてきたのか、「土地」制度と関連づけて説明したり、諸産業の発達が生徒が社会の変化や新たな文化の創造に影響を及ぼしていることを指摘できる生徒はほとんどいないと思われる。また、書院造のように、現代の私たちの生活と中世社会とが大きく関わっているにもかかわらず、そのことに気づかずに、中世と私たちの社会とは断絶された別世界ととらえてしまっている生徒が多い。

そこで、この時代の地域史料である「大原^{おおはら}同^{どう}名^な中^{ちゆう}与^よ掟^{おきて}」を教材とし、読み解くことで、生徒が中世という時代を身近に感じ、より深く関心を持って学習に臨めるようにしたい。また、当時の地域社会のようすや人々の考えを意欲的に考察し、中世とはどのような時代であったか考えるとともに、先人の思いを受けとめながら、自分たちの力でよりよい社会をつくっていかうとする意欲を持つ生徒に育てていきたいと考えた。

(2) 教材観

平安時代後半、荘園を守るために「武士」が登場し、やがて「中世」では、武家政権が成立する。武家政権は「土地」で結ばれた「封建社会」という力強い厳格な社会であった。「土地」をめぐる命をかけて戦う当時の武士や民衆の活力を背景に、今日の文化の源流となる新たな文化が生み出された。そして、その後の戦乱の時代を経て、近世の新しい形の封建社会が形成されたことにつながっている。

また、中世の社会のしくみの変化は、東アジア世界との関係が大きく、「元寇」によって鎌倉幕府の封建制度が崩れ、日明貿易を通じた明や琉球との交流が、その後のヨーロッパ人の来航にも影響を及ぼしている。

以上のように本単元では、政治体制の変化と周辺諸国との関わりという2つの大きな柱をもとに中世がどのような社会であったかを考察し、まとめ、表現できるようにしていきたいと考えた。

3. 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用 の技能	社会的事象についての 知識・理解
・ 武家政権の成立とその支配の広まり、	・ 鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕	・ 鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕	・ 武士が台頭して武家政権が成立し、その

<p>東アジア世界との密接なかかわり、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化など、中世の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、中世の特色をとらえようとするとともに、中世の文化遺産を尊重しようとする。</p>	<p>府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動や武家政治の特色について多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>・農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、禅宗の文化的な影響などについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p>	<p>府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p> <p>・農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、禅宗の文化的な影響などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</p>	<p>支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>・武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解し、その知識を身に付けている。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4. 単元の指導計画と評価計画

時	ねらい	学習内容	評価規準			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
1	平安時代中期に登場した武士がしだいに勢力を広げてきたようすを、新しい土地制度や戦乱などから理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・武士の登場 ・院政 ・荘園と武士 	<p>武家政権の成立とその後の政治、社会、文化の動きに対する関心を高め意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。</p>			<p>政権の移り変わりに着目しながら、武士が登場し成長していくようすを理解している。</p>
2	鎌倉幕府を開き、武士の支配を	<ul style="list-style-type: none"> ・源平の争乱 ・鎌倉幕府 		<p>平氏政権が倒され、鎌倉幕府が成立する経過をとらえなが</p>		

	しだいに全国に広めていった武家政治の工夫点を考える。	府の始まり ・ 執権政治	ら、鎌倉幕府が支配を全国に広げることができた理由を説明している。		
3	農業技術や手工業・商業の発達をもたらす社会の変化について考える。	・ 武士と地頭 ・ 武士の生活 ・ 民衆の動き	社会が大きく変化した理由を産業の発達と関連づけて説明している。	武士と農民の生活ぶりを資料から読み取っている。	
4	絵巻物や図版から、新しい仏教の教えや文化の特色をとらえる。	・ 新しい仏教の教え ・ 文化の新しい動き		武士や民衆の活力を背景に生み出された新しい仏教の教えや文化の特色を絵巻物や図版から読み取っている。	
5	鎌倉幕府が滅亡した理由を、元寇の影響や政治・社会の変化から考える。	・ モンゴル帝国の拡大 ・ 二度の元寇 ・ 鎌倉幕府の滅亡	東アジア世界の状況をおさえながら、鎌倉幕府が滅亡した理由を、元寇の影響や政治・社会の変化から説明している。		
6	日本は東アジア諸国とどのようなつながりを持っていたのかについて考える。	・ 南北朝の動乱 ・ 東アジアの変動 ・ 琉球と蝦夷地	室町幕府と中国・朝鮮との結びつき、琉球・蝦夷地の動きを押しえながら、南北朝の動乱の中で武家社会がどのように変化したのか、説明している。		
7	畿内を中心に商業や手工業の発	・ 室町幕府のしくみ			室町幕府の支配体制が整い、中国

	展によって自治的な組織が生まれてきたことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の発展 ・市のにぎわい 				<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮との貿易が行われる中、産業が発達するようすを理解している。
8	民衆や戦国大名がどのようにして力を強めていったのかについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・村の自治 ・応仁の乱 ・戦国大名の登場と都市 		室町時代に民衆が団結し、後半には戦国大名が登場した原因を、一揆や動乱が起こった場所と関連づけながら説明している。		
9	中世の文化の特色を理解し、現代の文化とのつながりを実感する。	<ul style="list-style-type: none"> ・室町時代の文化 ・武家文化の成長 ・文化の広がり 		室町時代に生まれた文化がどのような背景から生まれたものかをとらえ、説明している。		
10 ・ 11 本 時	身近な史料から、中世の特色について考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・中世とどのような時代であったか。 	地域の史料に関心を持ち、意欲的に考察している。	史料から読み取った内容から、中世とはどんな時代であったかを、ポイントを押さえて自分の言葉で説明している。	史料からわかる当時のようすを的確に読み取っている。	

5. 本時の展開

段階	学習活動	形態	教師の支援・配慮事項	評価規準	研究主題との関連
導入	1.モニターに提示された「大原同名中与掟」を見て、以前学習した中でこれと似たようなものがなかったか、考える。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・提示した史料が「掟」であり、甲賀市内のものであることを説明する。 		

	<p>2. 「大原同名中与掟」の条文中の代表的なものの現代語訳を見て、史料から読み取れる当時の社会のようすや人々の考えを挙げ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦いのときの決めたことが多い。 ・ いろいろな立場の人が掟を守ることがを誓っている。 ・ 多数決でものごとを決めている。 	個人 ↓ 4 人 グ ル ー プ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以下のことに注目して話し合いができるよう支援する。 ① 署名している人はどのような立場の人か。 ② どのような状況に対処するための条文が多いか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「大原同名中与掟」に興味を持ち、意欲的に調べているか。 ・ 史料の内容を的確に読み取って、考察しているか。 	わかる つながる
	<p>3. 各グループの発表をふまえ、「中世とはどのような時代か」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 争い ・ 自治 ・ 自警 	ペ ア	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのような時代かがすぐにわかるようなキーワードで表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み取った内容から、中世とはどんな時代かを、ポイントを押さえて自分の言葉で説明しているか。 	つながる
ま と め	<p>4. 先人たちの思いをふまえ、信楽で現代版「掟」をつくるとしたら、どのような条文を入れるか、考える。</p>	個人		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちとのつながりを感じ、意欲的に記入しているか。 	つくる

公民的分野 公開授業 指導案

日 時 平成23(2011)年11月11日(金)
 学 級 3年 1組(計 38名)
 指導者 甲賀市立甲南中学校教諭 石岡 一也

1. 単元名 「使う編：一番いい支払い方法は何だろう」(経済的分野・家計)

2. 指導によせて

(1) めざす生徒の姿

社会の多様化・複雑化がすすむ中で生徒につけなければならない力は、十分な情報を集めた上で自分にふさわしい方法を選択する力である。そこで授業の中でさまざまな選択の場面を設定し、生徒に自分の考えとその考えに至った理由を公表する機会を作るように心がけている。本単元でも現在社会にあるさまざまな支払い方法を学び、将来の生活の場面でどの支払い方法を自覚的に選択していくかを決定する力をつけたいと考えている。そのような人が増えることでよりよい社会が形成されるわけだから、それが本単元における「社会を創る力」になるであろう。

そのためには授業を通して先払い、即金、後払いが持つ特性を理解する必要がある。それぞれには利点もリスクもある。その支払い方法を選択した場合、どのようなことが起こりうるのかを予想できる力が必要であろう。それが「わかる」になる。またその特性を自分だけで発見する必要はなく、生徒間の意見交流の中で新たな発見をすればよい。それは生徒同士の「つながる」活動によって可能になる。その話し合いを通して自分にとってもっともふさわしい支払い方法を選択し、その理由をしっかりと整理するという「つくる」場面を設けることで、自らの将来の支払い方法を決定するひとつの方向付けが出来たと考えてよいのではないかと思う。

(2) 教材観

お金の支払い方法はその時点や将来の収入や購入によるトレードオフなど、その時々状況に合わせて決定する必要があり、本単元でそれを疑似体験させたい。そうすることで、身近で重要な経済活動である「買う」ということが「お金をより有効に活用する」ことだと考えられる、自覚的な選択ができる生徒になってもらいたいと考えている。

ただ「支払い」という学習をする場合、ふたつの点に注意しなければならない。

ひとつは多重債務や自己破産の危険などのマイナス面を強調しがちになることである。もちろんそれらの問題は深刻であるが、それだけを学んだ生徒は経済活動に対して怖いものと感じ、持っているお金を有効に活用しないことにつながりかねない。そこで「お金は有効に活用してこそ価値がある」ことをしっかりと伝え、前向きに経済活動に向かうよう心がけたい。

もうひとつは身近な支払い場面を設定しなければならないことである。例えば家の支払い場面は生徒にとって身近ではなく、イメージしにくいものである。そこで今回は「プリペイドカードを持っているコンビニで菓子を買う」「働き始めて車を買う」を取り上げ自分の問題として考えられるように工夫した。

3. 単元の評価基準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
・お金を有効に活用しようとする意欲を持ち、積極的な経済活動をすすめることを考えようとしている。	・支払い方法の特性を理解した上で、自分などの方法を選択したかの理由を説明できる。 ・消費活動を消費者主権の意義にのっとって行うことができる。	・支払い方法のシステムを、カードなどの具体的な教材と結びつけて理解する。 ・自分の意見を考える場合に適切な特性を引用している。	・消費者主権の意義を理解し、消費に関する規定を意義の具体化という形で理解している。 ・各支払い方法の身近な例を挙げるができる。

4. 単元の指導計画と評価計画

時	ねらい	学習内容	評価基準			
			関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	様々な規定が	消費者主権と				消費者主権の

1	消費者主権に基づくことを理解する	消費者を保護する法律	最近の自分の経済活動をふり			原則と規定の内容をつなげて理解する。
2	さまざまな支払い方法について理解する	支払い方法のちがい	り取り、学習内容と絡めてこれからの経済活動への意欲を持つ。		支払い方法の例を身近な例をあげて説明できる。	
3 本時	支払い方法の特性を理解し、どれがいか選択する	支払い方法をめぐる話し合い		自分の支払い方法を選択した理由を説明できる。		支払い方法の特性によって整理、理解している

5. 本時の展開

段階	学 習 活 動	形態	教師の支援・配慮事項	評価基準と方法	研究主題との関連
導入 5分	1. 前時の内容を復習する。 ・商品を買うときの支払い方法を再確認する	一斉	○より具体的な形で思い出せるよう、前時で示した資料を再び見せる ・現金 ・電子マネー各種 ・プリペイド各種 ・クレジット各種		
展開 40分	2. 支払い方法を分類する ・先払い ・即金 ・後払い	一斉	○確認した支払い方法を「先払い（プリペイド/電子マネー）」「即金（現金）」「後払い（クレジット）」に分類させる	ワークシート：分類内容を整理して書いている（資料・表現）	つながる（教材）
	3. 3つの支払い方法の長所と短所をそれぞれ考え、整理する ・個人で考えた後、4人班で班の意見を整理する ・各班の意見を黒板を使って整理する	個別 ↓ 班別 ↓ クラス	○ワークシートを配布し、話し合いの内容を整理する手助けとする ○交流の中で自分とはちがう意見を、自分のワークシートに色ペン等で書き加える（班内：青、クラス：赤） ○最終的なクラス全体の長所・短所整理を教員で行う	テスト：それぞれの支払い方法の長所・短所を整理して理解している（知識・理解）	つながる（仲間） わかる（長所・短所）
	4. 具体的な支払い場面を提示し、自分ならどの支払い方法を選択するかを考え、発表する ①出先でお菓子を買う：現金払いか先払いか ②働き始めて車を買う：現金払いか後払いか	個別	○生徒にとって想像しやすい具体例を示す ○その方法を選択した理由を論理的に話すように促す ・どれを選んだのか ・どうしてそれを選んだのか ・リスクはわかっているか ・それをどうカバーするのか ○自分とはちがう意見も聞き、討論するよう促す	発言、ワークシート：選択の理由を長所・短所を理解した上で説明している（思考・判断）	つながる（仲間） つくる（選択の説明）
まとめ 5分	5. 本時のまとめ 各支払いの長所・短所を再度整理する	一斉	○支払いについて考えたことを、自分の言葉でまとめさせる	ワークシート：これからの購買活動に対して真剣に考えている（関心・意欲・態度）	つくる（将来への意欲）